

輝け！ Bonsai Girls！

代表者 入江美聖（経済学部経営システム学科2年）

1. 目的と概要

このプロジェクトは、県産品である高松盆栽の普及活動に努めている。盆栽のイメージは「男性」で「高齢の方」がするものであるという印象が強く、これから未来を背負っていく若者にあまり親しみが無い。そこで私たち Bonsai☆Girls は、今までの盆栽のイメージとは真逆の、「女性」や「若者」に盆栽の魅力を伝え、多くの人に盆栽に関心をもってもらいたいという目的で活動を始めた。高松盆栽を普及することは地場産業を盛り上げ、地域活性化にもつながると考えている。



2. 実施期間（実施日）

平成27年6月1日 から 平成28年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、商店街やイベント、コミュニティーセンターなどでのワークショップを中心に活動してきた。今年度は、月に一度のワークショップの開催を心掛けており、その目標は達成できた。また、高松市内だけでなく直島や坂出など様々な地域に出向き盆栽普及活動が出来た。SNSを使った情報発信を定期的に行うことで、県内だけでなく、県外、海外の方にも活動を認知してもらえ、ワークショップへの参加人数は回を重ねるごとに少しずつではあるが増えた。またターゲットである女性や若者の参加も多くみられ、高松盆栽の認知度が向上したように感じられた。理由として、ワークショップでは盆栽をハロウィンやクリスマス



数は回を重ねるごとに少しずつではあるが増えた。またターゲットである女性や若者の参加も多くみられ、高松盆栽の認知度が向上したように感じられた。理由として、ワークショップでは盆栽をハロウィンやクリスマス

ス仕様など季節に合わせた内容にすることで、女性や若者からみて「可愛い」と思っていたのではないかと思います。SNSでの情報発信に力を入れることで、盆栽に興味を持つ層が広がったように思う。ワークショップは私たち初心者が普及活動をするので、敷居の高いものと思われがちな盆栽を、手軽で誰にでも楽しめるものであるという印象に変えていく第一歩となったのではないかと感じる。また私たち自身も盆栽の知識向上に努め、ワークショップの場で活かすことが出来、普及活動を行う側としての意識もより高まった。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、香川大学が掲げる「地域に根ざした学生中心の大学」のキャッチフレーズを、実際のものにできたように感じられる。Bonsai☆Girlsは香川大学生であるという自覚をもって活動し、大学のPRにも力を入れることができた。

また、地域社会に対しても貢献できた。県産品である盆栽を女子大生が普及していくという発想は、盆栽の世界に新しい風を吹き込むことが出来、文化の面からと地場産業の面からの地域活性化につながった。若者に普及することなど、盆栽作家さんが手に届きにくい層への普及活動により、盆栽の消費拡大にもなったように感じる。また、県外へのアピールの一環としてのSNSの利用で高松盆栽の認知度向上につながり、県産品のPRになった。県内に住む方々は、盆栽が県産品であることを知ってはいても触れたことはないという方が多い。私たちが盆栽作家さんと初心者の方を繋げる役割をすることで、盆栽を手に取りやすい存在にすることができ、地域の方にとっても県産品である高松盆栽をより近い存在に変えることが出来た。

香川大学生が地域と地域をより密着させることで、大学PRにも、地域活性化にもつながり、地域社会に貢献できる活動ができた。



5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

プロジェクトを通して関わった地域社会のみなさんから、社会でのマナーを習得することができ、大学に通っているだけでは経験できないことを学ぶことができた。メンバーと協力しプロジェクトを運営していくなかで、組織運営の難しさや大変さを経験し、今後社会に出るまでの訓練にもなった。またメンバーが少ない分、一人ひとりが責任をもって活動することができ、メンバー全員で問題解決できたことや一つ一つの活動に参

加できたことは、個人のスキルアップにもつながった。授業やアルバイトなどの合間を縫ってそれぞれが自分の役割をこなし、プロジェクト全体の活動につなげることが出来たのは、この一年の成果だと感じる。プロジェクト運営の面だけでなく、地域との連携や他大学との交流を通してさまざまな活動をしている方の刺激を受け、大学生活を見つめなおすきっかけにもなり、それぞれが勉学などの意欲向上にもつながった。プロジェクト活動をしていくことは部活やサークル活動とは違い、個人の責任も重く、一つの団体の中での個人の存在が大きくなる。大学という組織を飛び出し、外とのつながりを持つことは、簡単な気持ちでは務まらない。そのような環境のなかで活動できることは、私たちにとってとても大きな経験になり、それぞれが成長できたように感じられ、大変有意義だった。



(盆栽づくりワークショップの様子)



(盆栽作家さんから盆栽を習っている様子)

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今年度は香川県内の様々な地域で活動する機会をいただいた。そこで出会った方たちと繋がりができ、一度きりではなく長くお付き合いをしていただけて、私たちの活動も徐々に定着しはじめた。しかし、盆栽の産地である鬼無や国分寺に関して、私たちが盆栽の知識を教わっている講師の方以外とはほとんど接点がなく、鬼無、国分寺に関してあまり知らないという問題点が見つかった。そこで、今後はワークショップだけでなく、私たち自身が盆栽産地について調べ、鬼無や国分寺の方と繋がり、「高松盆栽＝鬼無・国分寺」と思ってもらえるように活動していきたいと思う。具体的な活動としては、盆栽作家の方への取材や盆栽産地の特に盆栽が有名な場所を巡る、盆栽ツアーといったも

のが出来たらよいと考えている。

また、来年度は瀬戸内国際芸術祭があり、県外から多くの方が香川県を訪れてくださるので、この機会により多くの人に高松盆栽を知っていただきたいと考えている。そのためにも、私たちの活動を分かりやすく紹介したチラシやパンフレットなどを作りたいと考えている。さらに今年度は香川大学への留学生が盆栽に興味をもってくださり、少しの間ではあったが活動を共にすることが出来た。瀬戸内国際芸術祭には海外からのお客さんもたくさん訪れるので、来年度も留学生とともに活動出来たら、いろいろな言語で高松盆栽を普及できるのではないかと考えている。高級なイメージのある盆栽だからこそ、さまざまな国の若者が普及活動を行っているを知っていただける機会が増えれば、たくさんの方に注目していただけたらと思う。そのためにも、一つ一つの活動で新しい高松盆栽の魅力を伝えられるよう、さらに力を入れていきたい。

7. 実施メンバー

代表者	入江 美聖（経済学部2年）	竹本 しおり（経済学部1年）
構成員	泉川 美緒（経済学部4年）	渡辺 佳奈子（経済学部1年）
	宮谷 亜香里（経済学部2年）	静 輝美子（経済学部1年）
	杉山 美栄（経済学部2年）	杉田 茉央（法学部1年）
	前田 遥香（経済学部2年）	角野 真優奈（法学部1年）
	川本 和季（経済学部1年）	
	高森 日菜子（経済学部1年）	